

《各学年の特徴》

- 1年 数に興味をもち、意欲的に取り組む児童が多い。問題を理解する力、計算する力には個人差がある。
- 2年 基本的な計算を正しく行うことができる。数感覚に個人差がある。
- 3年 問題の場面を考え、意欲的に取り組む児童が多いが、正しく立式したり計算したりすることが不得手の児童が見られる。
- 4年 基礎的・基本的な問題の解き方は理解しているが、自分の考えを広げたり深めたりするのが不得手の児童も見られる。
- 5年 問題の場面を捉え、図や表に表して解けるようになってきた。定規やコンパスを使って正しく描いたり、定規や分度器で正しく測ったりすることが不得手の児童が見られる。
- 6年 基礎的・基本的な計算の力に個人差があるが、問題文の場面を捉え、図や表、グラフに表して解くことができる児童が多い。

《学力調査から見られる指導の重点》

- ・「数や計算」の領域において、立式に必要な数値を選び、計算方法を考えることができる。
- ・小数の四則計算を正しく行うことができる。

育てたい力（課題）

- 1年 基本的な計算方法を理解して、計算する力。
- 2年 時間や長さ、かけ算などを、日常生活で活用できる力。
- 3年 乗法九九などの、基本的な計算を基にした除法の計算を確実にでき、適切に用いる力。
- 4年 平行や垂直の関係を正しく理解し、分度器やコンパスの活用に慣れ、いろいろな図形の特徴をとらえて描ける力。
- 5年 課題を適切に捉え、自分なりの解決方法を考えて見通しをもって解く力。
- 6年 既習の学習を生かし、新しい計算の仕方や問題の解き方を考える力。

☆授業改善の具体策☆

- ・習熟度別指導の効果的な実施
- ・個に応じた指導の充実
- ・ICT機器の活用
- ・東京ベーシックドリルの活用
- ・モジュール指導の有効活用
- ・既習事項の掲示
- ・既習事項を活用する授業展開
- ・ノート指導の充実
- ・ドリル、プリントによる繰り返し学習
- ・ホワイトボードの活用

《知識及び技能》

- 1年 具体物の操作を通して、正しくたし算やひき算ができるようにする。
- 2年 かけ算九九や筆算等の基本的な知識や技能を、繰り返し練習し、身に付けるようにする。
- 3年 具体物の操作や体験的な活動を通して、小数及び分数の意味と表し方、数量や図形についての感覚を豊かにする。
- 4年 具体物の操作や体験的な活動を通し、図形を構成したり、図形の面積や角の大きさを求めたりする技能を身に付ける。
- 5年 習熟度別指導を充実させ、小数や分数の計算や、表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付ける。
- 6年 習熟度別指導を充実させ、分数の計算をしたり図形を構成したりすることなどについての技能を身に付ける。

《思考力・判断力・表現力等》

- 1年 文章題を絵や図に表したり、具体物を操作したりする活動を通して、考える場面を多く取り入れる。
- 2年 図や絵、式、言葉等を用いて考え、説明する活動を多く取り入れる。
- 3年 必要に応じて、具体物や図などを用いて数の表し方や計算の仕方を考察する力を養う。
- 4年 図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、図形の性質について考察する力を養う。
- 5年 数とその表現や計算の意味に着目し、目的に合った表現方法を用いて、数の性質や計算の仕方などを考察できるようにする。
- 6年 既習事項を基に、適切な方法を選んで分析を行い、自分の考えを書くことができるようにする。

《学びに向かう力》

- 1年 具体物の操作や、問題に繰り返し取り組む活動を取り入れ、学習したことを生活や今後の学習に生かせるようにする。
- 2年 相手の考えの良さを見付け合う活動を多く取り入れ、学習したことを生活や今後の学習に生かせるようにする。
- 3年 数量や図形にすすんで関わり、数理的な処理のよさに気付くよう、既習事項を活用する授業を展開する。
- 4年 数学のよさに気付き、学習したことを生活や学習に生かせるよう、既習事項を活用する授業を展開する。
- 5年 数学のよさに気付き、多面的に捉え検討して、より良いものを考える。
- 6年 数学的に表現したことを振り返り、多面的に捉え検討して、より良いものを考える。